

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890700447		
法人名	メイブルケア有限会社		
事業所名	グループホーム楓		
所在地	福井市大宮4丁目13番1号		
自己評価作成日	平成25年10月15日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成25年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域活動に力を入れ、地域の神社の祭りに参加したり、公民館祭りに参加、グループホームの祭り、グループホームの防火訓練のみならず、防災訓練に参加などして、地域に密着した活動参加をしている。  
 ・ホーム内では、家族のような雰囲気、その人がその人らしく暮らせる、心地よい居場所づくり、「できないことはない」という考えのもと、利用者それぞれが「できる事を伸ばす」取り組み自分の力で生活することを支援しています。  
 ・スタッフには、「自分の親だったら、どう思うか」を常に考えて対応する事を伝えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は近くにえちぜん鉄道駅や商店街がある利便性が高い住宅地に立地している。管理者は地域に積極的に出かけ関係機関や関係者との連携を働き掛けている。また、自治会で実施する避難訓練や行事、祭礼等に利用者とともに参加したり、地元中学の職場体験を受け入れをするなど交流に力を入れている。利用者と職員が事業所周辺を散歩する際には、近隣住民に積極的に挨拶を交わし新たな馴染みの関係ができるよう支援している。日々のケアでは職員が多くの「ヒヤリハット事例」を記入することで気づきが促され、「閉じ込める介護はしない」という目標を掲げ、可能な限り外出するよう努めている。なお、毎月発行されている「楓だより」には活動写真や行事予定などを掲載し、家族に送付する際に利用者一人ひとりについての近況報告を添えるなど、情報提供にも工夫している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作り、ホーム内に掲示し、ミーティングで話し合い日々の生活を通し、理念の実現に向けて努力している。	利用者の人権の尊重と地域との関係を目標とした理念を作成しており、ホーム内に掲示したりパンフレットに掲載したりして周知を図っている。また、年度の事業目標を掲げ、管理者はミーティングや勉強会で職員に理念を浸透するよう努めており、職員は「笑顔と暖かく」をモットーに支援している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の行事に利用者に参加している。自治会の避難訓練にも参加し今年度は地域交流の夏祭りを開催した。	自治会避難訓練や地区の行事・祭礼等への参加や近隣中学の職場体験の受け入れ、中学校合唱部との交流のほか、事業所で夏祭りを開催し多くの地域住民の参加を得るなど交流している。管理者は地域に積極的に出かけ、関係機関等との連携を働き掛けている	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買い物や公園までの散歩など、野外に出てもらい安心して暮らしていけるよう取り組んでいる。地域のお祭りで子供神輿に来ていただき、交流を深めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告をするとともに、参加者の方々からの質問、意見、要望を受け、サービス向上に生かしている。	公民館長、地区社協会長、老人会長、自治会長、民生委員、家族、地域包括支援センター職員の参加を得て2か月毎に開催している。会議ではヒヤリハットなど運営状況を報告し意見を聞いたり、地域情報を得たりするほか、事業所行事への参加協力も依頼している。参加できなかった家族にも毎回議事録を送付し周知している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市介護保険課の職員と密接に連絡を取り、分からない点などをお聞きしている。また、地域包括支援センター職員に事業所運営の相談にのっていただいている。介護相談員は2か月に1度訪問している。	管理者は市介護保険課や地域包括支援センターに積極的に出かけ、運営上の相談や連絡を行っている。また、地域包括支援センター職員の来訪があるなど連携している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事を契約書に掲げており、スタッフに対しても身体拘束をしないように全員で取り組んでいる。また、玄関の施錠はしていない。	身体拘束禁止を運営規程、重要事項説明書、契約書に掲げ、身体拘束防止マニュアルを作成し、管理者が職員への周知に努めている。玄関の施錠はせず、「独歩」する利用者を職員は見守りながら付き添い、利用者が気分転換できるように支援している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフには研修や勉強会に参加してもらい、日常生活に於いても虐待行為に当たるような対応が行われないように常に気を張り指導し、また勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者さまで成年後見制度の必要な方が退去されましたが、後見人・司法書士の方と密接に話し合い退去の際には対応した。今後も活用できるように支援していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容を十分に説明し、疑問点などについて説明している。家族の不安や希望などは記録に残しサービスに反映させている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、家族からの意見は、今のところない。又直接家族相談はあり、介護記録に記載してスタッフ全員に周知している。	家族に行事参加を呼び掛け、行事参加の機会に意見を聞くほか、今年度は「家族アンケート」を実施するなど家族の意見を聞くように努めている。また、毎月、家族に担当職員が一言添えた広報紙を送付し、生活状況等の情報提供も行っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を月1回開き意見交換をしている。改善などスタッフに意見を聞いて、改善している。	月1回スタッフ会議で職員の意見を聞き、助言を行っている。同一敷地にある居宅介護支援事業所、デイサービスセンターとあわせて管理体制を設け、運営に対する職員の意見や提案を反映させる組織づくりとして管理者を補佐するサブリーダーを2名配置している。	管理者とサブリーダーで役割を分担しながら、面接などで直接職員の意見や提案などを聞くなど、個別に意見を聞く取り組みを期待したい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年は4月より給料水準、労働時間帯など職員個々にやりがいが持てるような対応を記載し承諾を得た。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自に合った研修の参加、資格等への挑戦も随時促している。又スタッフ会議には、知識を得るように勉強会など取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、管理者交流会に参加し、サービスの質の向上に向けて情報交換などしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、必ず面談を行い生活の状況や心身の状態を把握している。本人の思いを尊重し安心して過ごせるように居場所づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いをしっかりと受け止め、これまでの経緯や不安を踏まえて、密な関係を保てるようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思い・家族の希望・現在の状態など確認した上で、一日でも早くホームの生活に慣れていただく努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と一緒に買い物に行き、料理を決めたり調理を共にして、食事を楽しんだり、また居室の掃除も時間を決めて、スタッフと共にしている。又家庭菜園や、季節の材料を見ていただき食を楽しんだり、手作りおやつと共にしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者に変化があれば、ご家族に密に連絡し、本人の思い、家族の思いを尊重しながら対応して本人を支えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族には気軽に来訪していただける雰囲気を作り、主治医である病院にも行かれています。また希望があれば馴染みの美容室にも行って頂いている。	家族にセンター方式の用紙記入を依頼して利用者の馴染みの関係を把握し、職員間で共有している。また、家族が行事に参加した際に、家族同伴での外泊、外食を働き掛けるなど支援している。なお、家族同伴で馴染みの美容室に出かける利用者もいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の皆さんと一緒に計算ドリルをして、答え合わせをしたり、おやつ作りを楽しんだりする中で、自然に支えあう気持ちが芽生えている。全体で関わられるような問いかけや、レクリエーションなどをスタッフが考え対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族の相談に乗ったり、できる限りの対応を行っているが記録はない。退去されても、その後の経過を家人や、施設の方々にお聞きしたりしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の思いを引き出すような言葉かけや会話を心掛けている。心理面でも思いを汲み取るように努めている。スタッフ会議やケアカンファレンスなどには、各スタッフの意見などを聞いてプラン策定させている。(センター方式導入)	利用者との関わりは「否定しない、同意することから」「困難な場合も皆で考えると希望が見えてくる」「利用者の思いを引き出すような声掛け」をモットーに管理者が職員に働き掛けている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ご家族や関係者からこれまでの経緯や生活歴暮らし方等の情報を収集し把握している。入居後もご家族や本人からも情報を収集している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の一日の生活のペースやリズム、体調を把握するよう心掛けている。日々の生活の中で、できること・できそうなことを見つけるよう努力している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしさを大切にした介護計画の作成に心掛けている。また、本人や家族、ケアスタッフの意見や思いを受け入れ反映させるように作成している。	介護記録にセンター方式を活用し、気づいたことを都度記録している。利用者の24時間の生活状況を書くシートを活用し、利用者の状況を把握している。なお、状態変化があったときはその都度、1か月毎のケア会議、3か月毎のモニタリング等で見直ししている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの内容に沿ったケアを実施し、その結果を毎日ケース記録に記入している。記録やアセスメント、モニタリング、カンファレンスを行い3か月に一回見直しを行い新たな介護計画を作成している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状態に応じて通院、買い物等の支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の協力を得て、様々な催しや作業を楽しむ機会を作っている。地域の祭り等にも参加している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多賀内科との連携を取り、往診も定期的に行っている。連携医以外の受診を希望されるときはご家族同行の受診をお願いしているが、不可能な時にはスタッフが同行している。	利用者が希望するかかりつけ医を選択することができ、基本的に受診同行は家族としているが、緊急時は職員が同行し、「医療情報ファイル」を活用して医師に状況等を報告している。また、協力医による往診が2週間に1回実施されている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に入居者の健康状態や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を提供をし、毎日管理者が様子を見に行き、医療関係、ご家族と連携を取り、早期に退院できるように取り組んでいる。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応しえるケアについての説明を行っている。本人の気持ちを大切に、家族と話し合い、本人が安心して終末期を迎えられるように支援する。	入所前に重度化、終末期の対応について説明し、意向を確認している。利用者の突発的な状況変化に対応するための手順書「こんな時はどうする」もある。看護師のオンコール体制を敷き、死後処置のためのエンゼルミックスを準備している。以前に看取りの外部研修に参加し、看取りに近い対応を行ったこともある。	重度化・終末期の支援について職員間で話し合ったり、外部研修に職員を派遣したりすることを継続し、より一層体制づくりを進められることを期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全てのスタッフが年一回の救急救命の講習を受けている。また、マニュアルを作成しスタッフへの周知を図っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年二回の避難訓練を入居者と共に、夜間間想定で行っている。運営推進会議で地域の協力をお願いし、今年は近隣の方も避難訓練に参加していただいた。(春)地域の防災訓練にも参加している。	年2回、夜間想定も含め火災、地震想定避難訓練を実施している。運営推進会議で地域の協力を依頼し、訓練時には地域住民や同会議委員も参加・協力している。また、自治体の防災訓練に参加しており、水、非常食などの備蓄も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人のプライバシーやプライドが守れるよう日々のケアの中で心掛け入居者の尊厳を損なうような対応があった場合には管理者が指導し、適切な声かけができるように努力している。	管理者は職員に、認知症のある人の尊厳を守りながら行動を理解するよう指導しており、職員が不適切な発言をした場合は管理者が注意している。前回の外部評価の結果を受け、外部・内部年間研修計画を作成し、研修派遣や外部講師による内部研修等も実施しはじめた。	管理者はサブリーターと協議しながら職員の一人ひとりの対人援助の姿勢と力量を見極め、これをふまえた研修計画を作成し実施するなど、一層利用者の尊厳を守りプライバシーを確保する取組を期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを尊重し、本人がやりたい仕事や、物づくりなど実現できるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは一応決まっているが、その日の一人一人の体調や気分に合わせて生活ができるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人好みの服を自由に着て頂いている。訪問美容室を利用したり、希望者には馴染みの美容室へ行ける様支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付け等は入居者と共に行っている。スタッフ、入居者が同じテーブルを囲んで同じ食事を楽しく食べられるように家庭的な雰囲気作りをしている。	食事は旬の食材をメニューに採り入れて提供している。おやつは基本的にレクレーションを兼ねて手作りしている。なお、職員と利用者が調理、湯茶配り、配膳など一人ひとりの役割を担って準備している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎日把握し記録している。水分はいつでも気軽に取れるような工夫とおやつ時や就寝前の補給に配慮しながら1日1500ml以上摂取している。レベル低下の方や飲み込みの状態が悪く方には、刻みやトロミなど工夫をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方はして頂き、声掛け介助が必要な方には声掛けしたり、見守り介助を行っている。今年はスタッフの研修として口腔ケア指導研修を2回行う予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんどの入居者が自立している。たまに、トイレ行くことを忘れる方がおられるため、廊下歩行時、気づいてもらえるように配慮し、トイレに行ってもらっている。	生活状況24時間記録シートを活用し利用者の排泄パターンを把握している。トイレに行くことを忘れる利用者には、一日の生活リズムを作ることを支援し、トイレ誘導をさりげなく声掛けで支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜、果物、繊維質の多い食材を使い、水分も時間を決めて摂取できるようにし、毎朝、ヨーグルトを提供している。廊下歩行、体操も取り入れている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は一応決まっているが、希望者には入浴日でなくても入浴してもらっている。	外部講師を招いて内部研修を行い、入浴に関するグループワークを実施している。それを踏まえて「入浴申し送り」ノートを活用し、一人ひとりの入浴介助を見直し、本人の意向に沿った入浴となるよう改善している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整え、スムーズな入眠につなげている。日中も疲れが見られたり、希望する人は休息できるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の処方箋は個人のケース記録に綴り、スタッフが内容を把握できるようにしている。状態の変化が見られた時は、詳しく記録して主治医に相談している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野では一人一人の力を発揮してもらえようとお願ひし、できそうな仕事は頼み、感謝の気持ちを伝えている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のよい日には散歩や買い物に出かけている。年間行事計画を作成し、遠足等・月一回は実行している。地域の協力を得て、地域の祭りや公民館祭り等にも参加している。	一日の生活リズムができるよう支援しており、毎日近くの公園に出かけている。利用者の突発的な外出の際は、職員が後ろから静かに見守り時間の経過とタイミングを見計らって声掛けして利用者の気持ちが紛れるよう支援している。また、外出の年間計画を立て事業所全体で町内行事や遠出も実施している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はしていないが、家族の了解を得て、外出に出かけ、お小遣いで本人の必要品を購入している。時には、買い物に出かけられる方だけ選んでいただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かけたい時にかけられるように支援したり、かかってきた電話には会話しやすいように支援している。また、手紙や葉書のやり取りも支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所からは、調理の音やにおいがしている。旬の食材を取り入れ、季節感を取り入れている。季節に応じた掲示物をしている。	共有空間は採光が良く、廊下も広く、温度も快適に過ごせるよう調整されている。また、季節感が感じられるものが飾られ、利用者の作品や行事などの写真も掲示され居心地の良い空間となっており、利用者は思い思いにくつろいでいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下の奥にもソファを設置し、一人で過ごしたり、仲の良い人同士で集まって過ごしたりできるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	こちらで用意してあるタンス・ベッド以外は今まで家で使われていたものをそのまま持って来て頂いている。本人が家のように居心地良く過ごせるように支援している。	各居室の窓側に収納BOXがあり、その上には馴染みの写真や物品が所狭しと飾られその人らしい空間となっている。また、居室は臭いもなく、風通しも良く、衛生面も配慮されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわからない人には個別のネームを取り付けたり、トイレの場所がわかるように目印を付けている。		